

今回の瓦版は、会員以外の世帯にも
配布させていただいています！

* 瓦版は、3月・7月・11月の年3回の発行です。

* 本瓦版(pdfファイル)は、連携メールで「富田林寺内町の探訪」からダウンロードすることもできます。

第56号 発行・編集：富田林寺内町をまもり・そだてる会／じないまち交流館 富田林市富田林町9-29（じないまち交流館）平成25年11月27日（1）



JINAIMACHI KAWARABAN Vol. 56

瓦版/56号

題字 / 後藤 優太さん 8歳（西林町）



熊川宿の町並み1

九月二十九日（日）鯖街道で有名な、福井県若狭町の熊川宿への見学会に、小学生一名を含めた五十四名の皆さんと一緒に参加しました。途中十二時前には、小浜塗の箸専門店にて自分で削ったお箸をお土産に頂きました。その後、若狭フィッシュヤーマンズ・ワーフにておいしい昼食を食べた後、本日の目的地である熊川宿に向けて再出発しました。車窓からは、嵐山が水害に見舞われたのと同じ台風18号の爪痕が、あちこちに残っていました。黄色く実った田んぼの一部に、泥水を被って白っぽくなった田んぼ。橋すれすれの所に巻きついた多くの枯草や木切れ等。

まもり・そだてる会
会員見学会
へ福井県若狭熊川宿へ



熊川宿の町並み2

さて『道の駅・熊川宿』でバスを降り、ユーモアたっぷりの地元ガイド宮本さんの案内で歩き始めました。町は電柱の無い街道沿い一km程の間にあります。富田林と同じ位の道の幅の両側には、低めの二階建ての家や蔵などが並び、まるで時代劇映画の一場面を見るようです。道の片側には『平成の名水百選』に選ばれている幅1m程の前川が流れています。前川は流れが速く、水がきれいで魚も住まないとの事です。家の前から、すぐ川に降りることができ『かわと』と呼ばれる流し場が家ごとに設けられています。開け放たれた家では、山で採れた椎茸や葛等を、木の台に並べたり、竹籠に入れて売る店もあり、街道沿いの宿場町という風情いっぱいです。

「寺内町四季物語 2013 夏 第10回寺内町燈路」報告

今年の寺内町燈路（主催：じないまち四季物語実行委員会、共催：当会、観光協会）は8月31日（土）に実施されました。当日は、朝から曇がちの天気、終盤には雨も降りましたが、無事開催することができました。寺内町とその周辺には約1000基の行灯が並べられ、ローソクの灯りに美しい町並みが映し出されました。また同時開催の様々なイベントも実施され、約3200人の来場者（じないまち四季物語実行委員会発表）で賑わいました。

皆さん、ご支援・ご協力ありがとうございました。

（企画事業部会）



公民館での説明会

その後終点まで見学し、先回りですべて見てくださった三人と、ガイドさんに見送られて帰途につきました。見学会を終え、大雪に悩まされる事もなく、大雨でも土砂崩れもない、良い場所に私は住んでいるのだとつくづく思いました。（北会所町 芝本 重子）

「寺内町四季物語 2013 秋 第7回後の雛まつり」報告

今年の後の雛まつり（主催：じないまち四季物語実行委員会、共催：（社）富田林じないまち文化トラスト）は10月12日（土）晴天のもと実施されました。

当日は、菊の花とお雛様が寺内町内や周辺各所に飾られ、「寺内町・昔の婚礼」やお茶会等々も開催され、多くの方々で賑わいました。

当会は、イベント参加はしていませんでしたが、今回はじめて、寺内町のおもてなしの心を発揮しようと、じないまち交流館にてセルフサービス無料でのお茶の接待を「企画事業部会」協力の交流館事業として開催し、多くの方々に喜んでいただきました。

当日の交流館来訪者は、約500人で、例年より少し増加したようです。皆さん、ご支援・ご協力ありがとうございました。（企画事業部会）



「寺内町月見の夕べ 2013」報告

今年は、朝からの晴天に恵まれ、「寺内町月見の夕べ 2013」を予定どおり9月19日（木）に展望広場にて開催しました。前半は昨年同様、屋内での「清永とおる」さんによるトーク&ギターライブがあり、皆で懐かしの歌を歌いました。後半になって庭に出ると、二上山と葛城山の間には大きくまん丸いお月さまが明るく見えました。用意した月見団子150個もほぼ無くなり、盛況の内に会を終えることができました。

皆さん、ご支援・ご協力ありがとうございました。

（企画事業部会）

★じないまち交流館の職員を募集します！

現在「じないまち交流館」では6名の職員が交代で勤務しています。この度12月末をもって退職される方がおられますので、下記の通り女性職員を募集します。希望される方は、履歴書を添えて応募してください。

記

提出期限 平成25年12月11日（水）午後5時まで
提出先 じないまち交流館
条件 寺内町地区内に居住する65歳未満の方（65歳定年）
勤務開始日 平成26年1月より（詳細は直接採用者に説明）
問い合わせ先 じないまち交流館 TEL 0721-26-0110
なお、採用・不採用の結果については、12月25日（水）までに担当者より連絡いたします。



「富田林寺内町をまもり・そだてる会」の新会員を募集しています！！

この町をさらに守り・育てていくために、寺内町の住民の方をお誘いください。m(_)_m

新会員様には、入会時に行灯1基(1,200円相当)と12月に寺内町きり絵カレンダー(1,200円相当)を配布しています。詳しくは、じないまち交流館(0721-26-0110)まで。

今回の瓦版は、会員以外の世帯にも配布させていただいています！

* 瓦版は、3月・7月・11月の年3回の発行です。

* 本瓦版(pdfファイル)は、連携アプリ「富田林寺内町の探訪」からダウンロードすることもできます。

富田林寺内町 来訪者 歓迎キャンペーン

こんにちは! 笑顔であいさつ 歓迎を

まもり・そだてる会活動報告

Table with 4 columns: 月 (Month), 日 (Date), 会議名 (Meeting Name), 内容 (Content), 場所 (Location). It lists various meetings and events from July to November.

我が町の思い出と昔話 一里山町・富山町

H25年9月7日(土) 10時半 地方史研究家玉城幸男氏、松田将子氏(一里山町)と共に、本奥谷家にお伺いした。道路側の店と呼ばれる部屋で、一富老人会最長老の奥谷正子様に話して頂く。

部屋の上に神棚があり、氏神様、愛宕神社、三輪明神、伊勢内宮、外宮、事代主命が祀られ、毎朝祈られている。西側の部屋は仏様、滝谷不動尊、お大師さん、信貴毘沙門天が祀られて、北庭の東には伏見稲荷が祀られている。道路側の西、庭の見える仏間は、おさんどさん(西国三十三ヶ所観音霊場を三十三度巡礼する行者)の御宿であった。正子様の子供の頃は毎年春から夏、お接待され、オセタ(御背板)の御開帳があったとのことである。

内は火の用心が良かったが周辺は火事が多く、S10年5月23日 19時20分の富田林中学校(現府立富田林高校)火災では、僅かながらこの辺迄火の粉が飛んできた(岡田の記憶)。和山(富山町理事・事務局注)の家も先代までは伊勢大神楽の定宿で、最終日は家の前で全曲目が舞われたが、松田将子さんはこれをご覧になったようである。

わっていた。懐かしい思い出である(嶋田さんは店の名前を羅列されていたが岡田が簡単化した)。ところで、幕末池田屋事件で新撰組に殺された肥後藩の勤皇志士松田重助(1830年-1864年6月5日)は、一時富田林で私塾を設け、勤王論を教育し、門人数千人いたことが、司馬遼太郎の「竜馬がゆく」文庫(五)P92に書かれている。玉城幸男氏の記憶によると、仲村家(西林町)の香典帳に彼の名前(夫人が秦姓なので波多野という偽名を使っていた)があり、住所は一里山町になっていたとの事である。仲村家には吉田松陰も滞在したことがあり、後に天誅組の志士が近辺から多く輩出したこととも関連している。



(一里山町 岡田 昌治) (富山町 和山 幸雄)

☆交流館だより☆ ◎ギャラリー展示予定

- 十一月十六日(三十日) 古布の文化伝承会 古い着物や古布を使用した作品展
十一月一日(二十七日) 金剛高校美術部 絵画・版画作品展
一月八日(二十四日) 寺内町手芸の会 編物・ビーズ作品展
一月二十五日(一月十五日) 里山田舎(つこ) 寺内町とフクロウ散歩の写真・資料展
二月一日(二月十五日) じないまち交流館 お雛さま展示
三月十六日(三月三十日) 遊雲会 水墨画展
恒例の新春『鍋めぐり』 一月十一日(土)開催

後の難波の 明治時代の婚礼イベント

10月12日(土)、私の本家(現在は市の管理下にある旧田中邸で明治から昭和の初期にかけて執り行われた婚礼を再現するイベントが行われました。田守家から花嫁行列を作り花婿の待ち受ける旧田中邸に来てそこで結婚式を行うというイベントです。当日は天候も良く、多くの人が見物に来ていました。



(南会所町 田中新之助)

私の孫娘(分家した当主より数えて7代目に当たります)も三三九度のお酒をつぐ役目でも出席してました。ジジバカも知れませんが、孫娘が和服を着たのを初めて見たもので、かわいらしいなと思ったものでした。本家の当主は女性で、現在京都に住んでいますが、体調不良もあって富田林まで来る事が困難になり「家」の処分をどうしたものかと、今は亡き私の母に相談にきました。過去に杉山邸の例もあり、市役所に寄贈すると家も残り様々な形で利用されるのではとの考えから実行に移されました。

編集雑感

選抜高校野球や募金活動などで奉仕している制服姿のボーイスカウトを見られたことがあるかと思いますが、ボーイスカウトについてお話ししたいと思います。1907年(明治40年)8月、イギリス陸軍の英雄であったバーデン・パウエル卿(中将)が、20名の少年達を集めてロンドン郊外のブラウンシャー島で実験キャンプを行ったことからスカウト運動は始まりました。キャンプは大成功に終わり、これを組織したB.P.は、彼の訓練と教育方式が若者にとつて魅力的なものであり、かつ有効であることを確信し、野外生活の方法などを網羅した「スカウティング・フォア・ボーイズ」を著し、創刊したところ、スカウト運動は瞬く間にイギリス全土からヨーロッパ、アメリカへとひろがり、現在、106周年を迎え216の国と地域に2600万人のスカウト・指導者がいます。B.P.卿は1912年(明治45年)4月2日に日本を訪ねています。その後、1913年(大正2年)東京、静岡、大阪、福岡などで発足した少年団が、日本でのボーイスカウト運動の始まりです。

寺内町燈路に毎年参加させていただいています。ボーイスカウト富田林第1団は、富田林にもボーイスカウトをという強い思いと情熱で、1963年(昭和38年)11月に市の社会教育課の協力を得て、初代育成会長白江善三郎氏(金剛自動車)、副会長石田英男氏(万里春酒造)、越井睦次氏(初代団委員長鈴木善雄師(西方寺)、第1隊長入船盛治氏(船嘉)、第2隊長長森由嗣氏(柏屋葛城堂)、団委員長阿部龍太郎氏(公栄社)、山本伴弘氏(時計店)、中川善夫氏(米穀店)、木村勝太郎氏(整骨院)、当間元恒氏(金剛自動車)をはじめ多くの方々の尽力で、西方寺を団本部として



(堺町 和田 孝雄)

- 部会長 中井 隆洋
副会長 和田 孝雄
委員 岡田 昌治
委員 和田 幸雄
委員 柳本 惠三
委員 田中 新之助
委員 尾谷 正隆
委員 田中 實
(順不同)

広報部会

http://outdoor.geocities.jp/toni_kouhou/で紹介していますので、ぜひご覧ください。